

会社情報 (2021年9月30日現在)

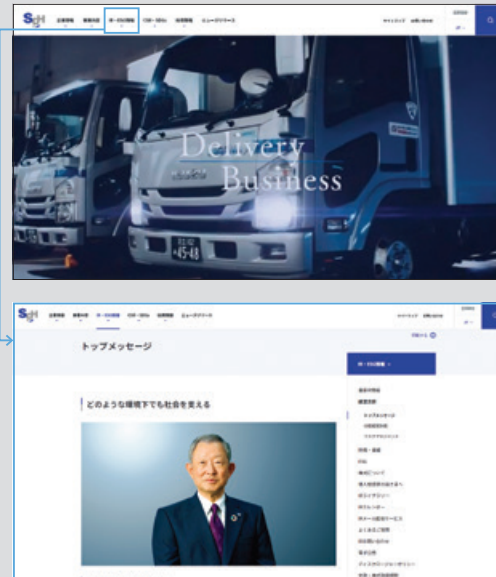
商号	SGホールディングス株式会社 (SG Holdings Co., Ltd.)
設立年月	2006年3月
資本金	11,882百万円
本社所在地	京都市南区上鳥羽角田町68番地
グループ人員	従業員数 97,513名 うち、パートナー社員等 (期中平均) 44,740名
事業内容	グループ経営戦略策定・管理並びに それらに附帯する業務
発行可能株式総数	1,800,000,000株
発行済株式の総数	640,394,400株(自己株式5,142,512株含む)
株主数	19,755名

株主メモ

証券コード	9143
事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎事業年度終了後から3ヵ月以内
株主確定基準日	毎年3月31日
剰余金の配当の基準日	期末配当3月31日、中間配当9月30日
株式の売買単位	100株
公告掲載方法	電子公告とします。ただし、やむを得ない事由により、電子公告によることができない場合は、日本経済新聞に掲載する方法により行います。電子公告は当社のホームページに記載しており、そのURLは次のとおりです。 https://www.sg-hldgs.co.jp/ir/notice/
株主名簿管理人及び 特別口座の口座管理機関	大阪市中央区伏見町三丁目6番3号 三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部
連絡先・郵便物送付先	〒541-8502 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号 三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部 電話番号 0120-094-777 (フリーダイヤル)

Webサイトでも情報を開示しています

▶ <https://www.sg-hldgs.co.jp>



当社のWebサイトでは、グループ企業の活動全般にわたる最新の情報をご提供しています。また、「IR・ESG情報」では、決算短信や決算説明会資料の掲載をはじめ、経営方針や経営戦略、各種お知らせなどを幅広く発信しています。財務情報や事業内容などの詳細はWebサイトをご参照ください。

▶ <https://www.sg-hldgs.co.jp/ir/>

※株式や配当の情報は、「IR・ESG情報」の「株式について」からご覧いただけます。

SGホールディングス株式会社

SgH

SGホールディングス株式会社

株主通信

第16期 中間報告

2021年4月1日～2021年9月30日

SGホールディングス株式会社

証券コード:9143

本号のキーワード
「EXPOLANKA社」

▶ 詳細はP5-6をご覧ください。

UD
FONT



この印刷物のFSC®ラベルは、世界の森林資源の責任ある利用を保証します。





時代を先取りしたサービスと 最適な物流ソリューションの提供により、 持続可能な社会の実現に貢献します。

代表取締役会長 兼 社長 栗和田 栄一

ご挨拶

株主の皆さまには、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

感染症の拡大を契機とした生活様式の変化は、eコマースに代表される通信販売需要を押し上げ、宅配便の社会ニーズを高めました。当社グループでは、増加するニーズにいち早く対応するために、次世代型大規模物流センター「Xフロンティア」の稼働を早めるとともに、持続可能な成長を見据え、デジタルイノベーション等による省人化、生産性向上の取り組みを進めております。また、宅配便以外のあらゆる「運ぶ」

を提供するTMSでは、コロナワクチン輸送を手掛け、これまでに接種回数換算で3,000万回分を超えるワクチンバイアルを輸送いたしました。

今後も常にお客さまと向き合い、最適な物流をご提供することで社会の公器としての責務を果たしてまいります。

上期の業績と施策について

2022年3月期上期のデリバリー事業につきましては、BtoBの取扱個数は緊急事態宣言の度重なる延長などの影響で経済活動が停滞したものの、積極的な営

業活動により前年同期に対し増加いたしました。一方、BtoCの取扱個数は、巣ごもり需要などの旺盛な消費があった前年同期に対し減少を見込んでおりましたが、新たな生活様式の浸透による通販需要の拡大もあり微減にとどまりました。この結果、取扱個数の合計は前年同期比0.7%増となりました。さらに、グループ横断の先進的ロジスティクスプロジェクトチーム「GOAL®」による提案営業の成果として、TMSの売上高も前年同期比16.5%増と、堅調に推移いたしました。

ロジスティクス事業につきましては、スリランカに本社を置くEXPOLANKA社において、世界的なコンテナ不足により海上・航空運賃の高騰が継続するなか、既存顧客の物量の増加に対応するとともに、海上輸送の新規案件を受託いたしました。この結果、上期業績は、連結営業収益7,260億円（前年同期比14.4%増）、連結営業利益588億円（同12.1%増）となりました。

下期業績の見通しと施策について

新しい生活様式の定着によりeコマース市場の拡大は継続することが予想され、宅配便に対する社会

的ニーズが高まり、ラストワンマイルの配達方法の多様化も見込まれます。

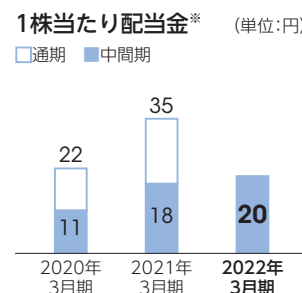
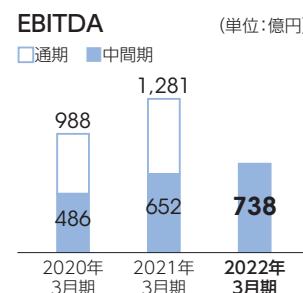
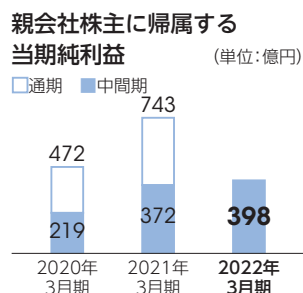
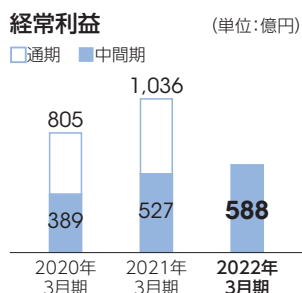
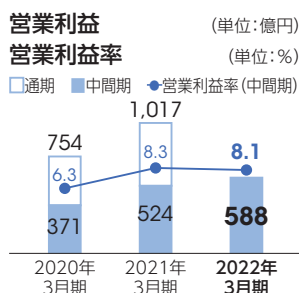
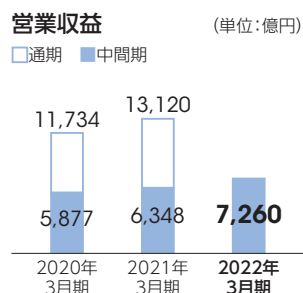
このような状況を踏まえ、当社グループは、営業活動とともに輸送ネットワークを強化し、お客さまのニーズに対応してまいります。また、多様な宅配便サービスへの対応や、持続可能な物流インフラの構築を目的として、9月10日付で佐川急便株式会社が日本郵便株式会社と基本合意書を締結いたしました。2022年3月期通期の連結業績予想は、上期の業績と足元の状況を踏まえ見直しをかけ、営業収益は1兆4,500億円、営業利益は1,250億円を見込んでいます。

配当について

2022年3月期の中間配当は、好調な業績を受けて1株当たり20円とさせていただきます。期末配当予想は、現下の堅調な動向に鑑みて総合的な検討を行い、21円、年間配当は41円を予定しております。

株主の皆さまにおかれましては、一層のご理解とご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

連結業績の推移



2022年3月期 連結業績予想及び配当予想

営業収益	14,500億円	(前期比10.5%増)
営業利益	1,250億円	(前期比22.9%増)
営業利益率	8.6%	(前期比0.8ポイント増)
経常利益	1,270億円	(前期比22.5%増)
親会社株主に帰属する当期純利益	850億円	(前期比14.3%増)
EBITDA	1,550億円	(前期比21.0%増)
1株当たり配当金	41円	(前期比6円増)

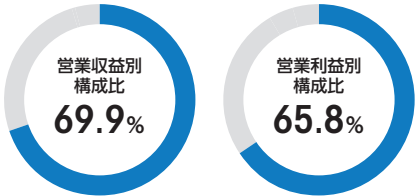
※1 2021年3月期中間配当以前の配当金については、すべて便宜的に2020年11月1日付株式分割後の数字に直して表示しております。

※2 2021年3月期中間配当は、特別配当5円を含みます。

セグメント別概況

※2021年3月期より「その他の事業」の一部を「デリバリー事業」に変更したため、2020年3月期の数値を変更後の数値に組み替えて比較しています。
※セグメント間の営業利益の調整額は11億円です。なお、各事業の構成比は調整前の営業利益で算出しています。

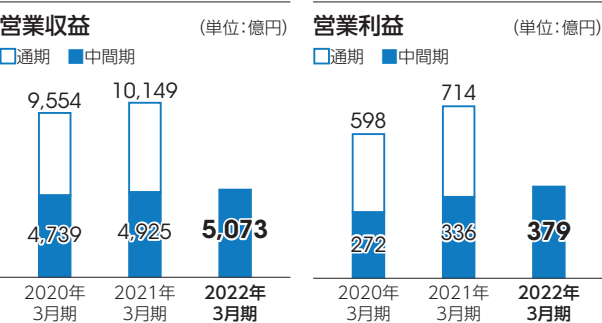
デリバリー事業



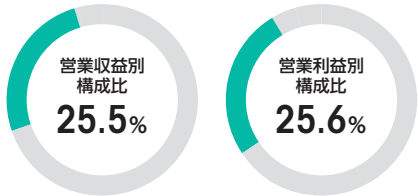
2022年3月期上期の概況と取組み

SGホールディングスグループの中核事業である当事業は、単なる輸送サービスにとどまらず、グループ各社との連携により、国内外問わず物流面からお客さまの課題を解決するソリューションをワンストップで提供しています。佐川急便の飛脚宅配便を中心に、大型家具や家電などの組み立て、設置など、輸送に関わるさまざまなサービスを展開しています。

2022年3月期上期は、BtoBの取扱個数は、感染症拡大以前の水準には至らないものの、前年同期に対し増加いたしました。一方で、BtoCの取扱個数は、前年同期の急激な需要増加の反動減はあるものの、通信販売の普及に代表される新たな生活様式の定着化が進み、底堅く推移いたしました。平均単価につきましては、適正運賃収受の取組み等により、継続的に上昇いたしました。加えて、「GOAL®」による提案営業の成果として、「TMS」が好調に推移いたしました。また、輸送ネットワーク全般の整備に関しては、「Xフロンティア」の安定的な運営に加え、施設の老朽化や地域の需要の変化等に応じた物流施設の改修やスクラップアンドビルドを進めております。この結果、増収増益となりました。



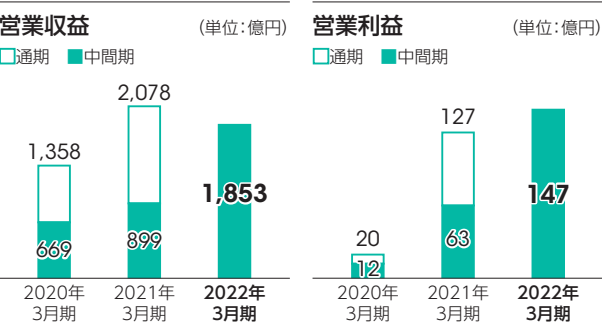
ロジスティクス事業



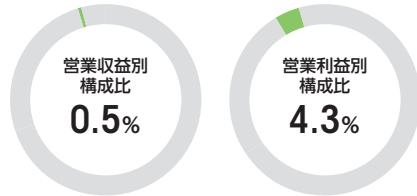
2022年3月期上期の概況と取組み

当事業は、国内外の倉庫での保管、流通加工、通関、フォワーディング及び利用運送といった包括的な物流ソリューションを提供しています。海外ネットワークはこれまで日本を軸とした輸出入を中心に発展してきましたが、EXPOLANKA社を傘下に加えた2014年を契機に、日本以外のアジアから欧米などヘグローバルネットワークが広がっています。

2022年3月期上期は、世界的な海上コンテナ不足に対する解決の見通しが立たないことで、海上・航空運賃が高止まりするなか、安定的にコンテナスペースを確保し、顧客の需要に対応いたしました。国内におきましても、GOAL®による包括的なソリューション提案により、3PL等の新規案件を受託いたしました。この結果、増収増益となりました。



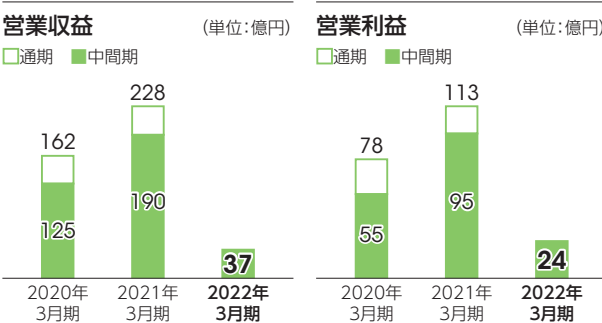
不動産事業



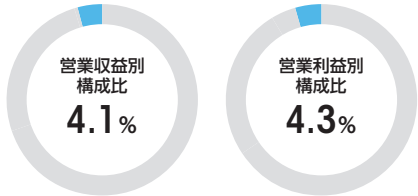
2022年3月期上期の概況と取組み

当事業では、新規物流施設の開発を通じ、グループの競争力向上に寄与しています。また、老朽化した既存施設及び物流効率の低い施設の大規模修繕やバリューアップにより、全国の輸送インフラの最適化を実現しています。

2022年3月期上期は、前年第1四半期に実施した保有不動産の売却を下期に予定しているため、減収減益となりました。なお、不動産売却額は中期経営計画に従い、前期と比較して92億円の減収を見込んでいます。



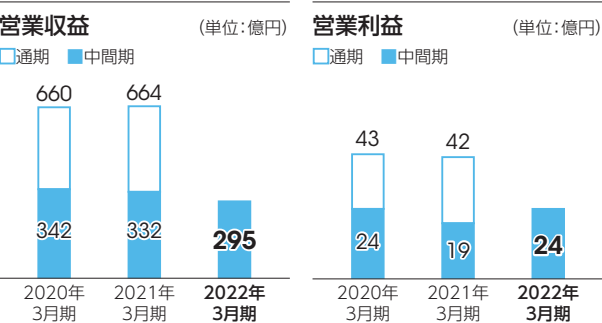
その他の事業



2022年3月期上期の概況と取組み

当事業では、お客さまに提供する提案やサービスの品質を向上させるために、物流に附随する各機能を担うほか、トータルロジスティクスを支える付加価値を創出、提案、提供します。また、グループ内の業務効率向上に寄与する機能も担っています。

2022年3月期上期は、BPO取引が増加しましたが、自動車販売が減少しました。この結果、減収増益となりました。

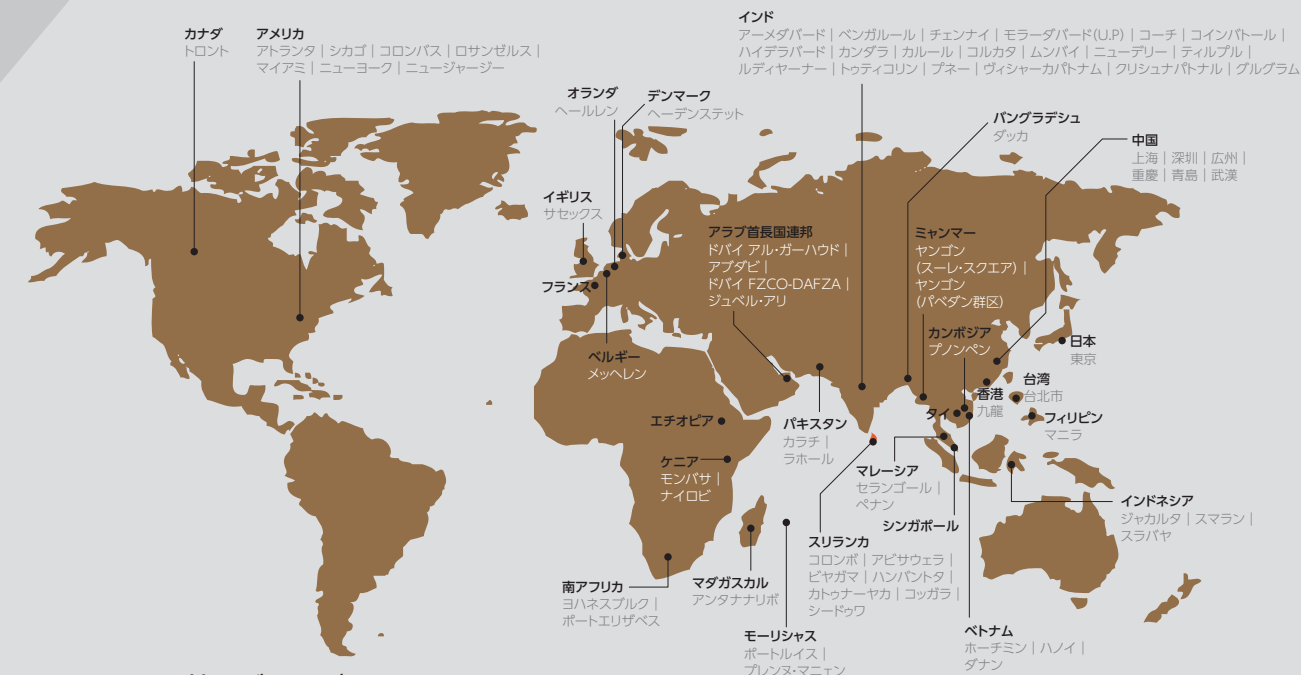
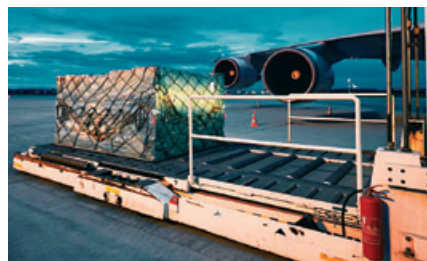


ロジスティクス事業の成長をけん引する EXPOLANKA社



EXPOLANKA社は、本社をスリランカ・コロンボに置く、航空機やコンテナ船を利用して企業の貿易をサポートするフォワーダーです。1978年に生鮮食料品の輸出会社Expolanka Limitedとして創業した同社は、その後1982年のExpolanka Freightの設

立を契機に事業領域とネットワークを拡大してまいりました。主要事業である航空・海上輸送を担うフレイト・ロジスティクス部門に加え、旅行・観光部門と投資事業部門を展開しております。



EXPOLANKA社のグローバル展開 (2021年3月末現在)

同社はアパレルの航空輸送を得意としており、世界を代表するアパレル企業との取引を行っています。長年にわたり信頼関係を築いてきた欧州での強力な代理店網に加え、近年強化している各キャリアとのネットワークを強みに、お客さまの多様な輸送ニーズに対応しています。2017年からはグローバル展開を加速し、2021年3月期期末時点で、世界29か国約60都市に自社拠点を展開し、売上高約1,230億円を誇る南アジアを代表する物流企業へと成長を遂げてまいりました。2020年から米国での営業チームを強化し、総合専門小売店から業務を受託するなど顧客基盤を拡大しているほか、新規キャリアとの関係構築や各地域における戦略的なM&A等を通じて、

更なる事業拡大を目指しています。

2021年3月期は、新型コロナウイルス感染症の影響により世界的に巣ごもり需要が伸びるなか、存在感を発揮しました。個人用防護具の緊急航空輸送やコンテナ船が世界的に不足するなか、キャリアとの信頼関係から輸送スペースを確保したことで、当社グループのロジスティクス事業における大幅な増収増益に貢献しました。2022年3月期においても、コンテナ需給のひっ迫が継続するなか、安定的にコンテナスペースを確保し、新規顧客や既存顧客の物量増加に対応しており、業績は好調に推移しています。

今後も、事業環境の変化を的確に捉え、持続的な成長を実現してまいります。